

Sasebo Japanese Garden

アルバカーキの日本庭園支援報告書

アルバカーキ市 (ニューメキシコ州,USA)

Ogata Kai Gardeners at Work

During the week of September 14-17, six master gardeners from Japan will work on designing a "garden within a garden" for the Rio Grande Botanic Garden. They were all trained by the late Kenzo Ogata and are volunteering their time to contribute to the Sasebo Japanese Garden. They are here this week since one of their members, Toru Tanaka, is our Japanese Garden architect. In 2007, the Ogata Kai gardeners volunteered at the Japanese Embassy in Washington, D.C.

As they work, they dress in the traditional gardener's uniform.

They are from all over Japan:

Shiro Hoshino	Akasaka	Tokyo
Mansaku Kozeni	Okayama	Okayama
Ryo Nagai	Hachioj	Tokyo
Kunio Tachi	Hitachiomiya	Ibaragi
Hiroshi Ide	Ogoori	Fukuoka
Mizuki Kubo	Obuse	Nagano

2009.10.

小形会

Ogata Kai

Sasebo Japanese Garden (佐世保庭園)

※日本庭園はこの一角につくられました



佐世保庭園の主景



庭園石碑

初めに

アルバカーキ植物園内に日本庭園の建設が始まったのは 2005 年の春のことである。実は、この庭園築造の計画は約 20 年前からあり、多数の造園家や設計事務所が計画、設計、見積もりなどに参加していた。

しかし、地理的・地帯的環境条件や予算、工期などの問題に加えて、どの案も発注者の希望を設計者が絵にして、施工業者が忠実にそれを施工するという旧来の築造パターンであったためになかなか話が進まないでいた。その後、幸運にも私に提案のチャンスがあり、考えた末に出した提案が受け入れられてしまった。このような経過で計画がまとまり、庭園が実現することとなった。

さて、この庭園実現に向けて、私が提案したこととは、「施主が施工する」という内容だった。施主とはもちろんアルバカーキ市のことであり、市には多くの人員、それに庭園材料、施工機械などが備わっており、そこに私が「日本庭園の感性」と「つくる技術」を重ね合わせて庭園を実現するという実にシンプルな方法であった。

これが、あまり他に例を見ない設計施工の形態であったために市側ではさまざまな議論があったようだ。しかし、紆余曲折はあったものの、最終的には市がこの提案を理解してくれて、本格的な庭園工事に着手することとなった。

第 1 期工事は 2006 年、春。植物園と日本庭園を繋ぐ庭園（トランジッションガーデン）、そして前庭（フロントガーデン）、日本庭園を紹介する庭園（イントロダクションガーデン）が完成した。

2007 年の秋には、第 2 期工事として池泉回遊式の庭園が完成した。この庭園を一般公開したが植樹した植物は 2009 年秋まで育成養生を行い、同年秋より第 3 期工事に入った。日本庭園内にはパビリオンを建設、2010 年より沢流れを延長し、これを受けてこれから 2 か所の池を含む神仙庭園、茶庭（茶室を含む）、枯山水庭園、自然園、盆栽園を築造する予定である。

最後になったが、この日本庭園の名称は姉妹都市である長崎佐世保市にちなんで「佐世保庭園」となっている。

以上がアルバカーキ植物園内日本庭園の築造経緯の概要である。

このたびは、小形会有志によりこの庭園の一角に新しい庭園を実現することができた。この目的はやはり日米友好と交流であり、以前からここに関わって来られた日米両国の多くの人達を顕彰する意味も加えられていた。庭園自体は、少ない時間で可能な限り入手できる材料でまとめたが、私自身よくできていると思う。これを完成に導いたアルバカーキ市長をはじめ、同市の多くの方々と素晴らしい庭園技を發揮した小形会の諸氏に深く感謝の意を申し上げたい。

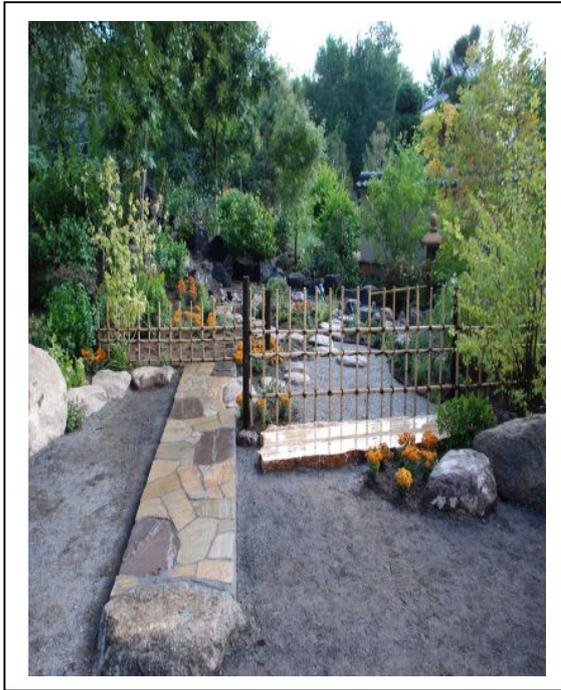
田中 徹

完成写真

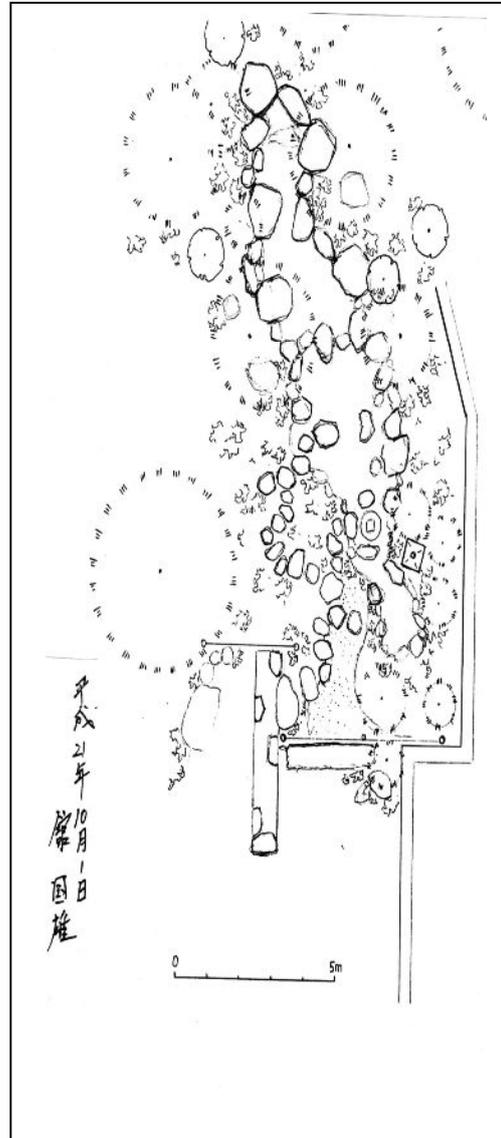


上の写真を説明する文章（約 150 字）

完成写真



平面図



このページを説明する文章（約70字）

庭園の説明

- ・ 全体的なこと
 - ・ 部分的なことを書いてください
- 星野さんに書いてもらったらどうでしょう

作庭記録

9月12日（土）

飛行機を乗り継ぎ、夕方アルパカーキ空港に到着。植物園最高責任者キャサリンさんの出迎えを受け、この日はそのままホテルにチェックイン。

9月13日（日）

日曜日とあって仕事はできないが、朝から現場の下見に行く。

イメージパースをもとに施工場所で滝口の位置・流れなど大まかなレイアウトの打ち合わせを行う。飛石及び景石の小さなものは事前に準備してあったが、滝口・流れ等の大ぶりの景石はなく、園内の広大な未開発地に点在する庭石をチェックする。植物もチェックしたが、時間の都合で道具類のチェックはできなかった。

この夜、30名ほどの関係者による歓迎会が園内の水族館で行われた。



説明



説明

9月14日（月）

今日から作業開始。日本より日差しは強いが日陰は涼しい。

現場に着くと作業員（手伝いの市の職員）4人とボランティア2人が地被（アジュガ）を施工場所から取り除いていた。

まず2班に分かれ、1班は滝口・流れ等作庭部分の最終確認をし、その部分にあたる植物（エンジュ・ドッグレグなど）の堀取から始めた。堀取った植物は適所に本決めまたは仮置きを行った。もう1班は景石集めを行った。

作庭場所もいよいよ施工ができる状態となり、景石も集まったところで、ボブキャ

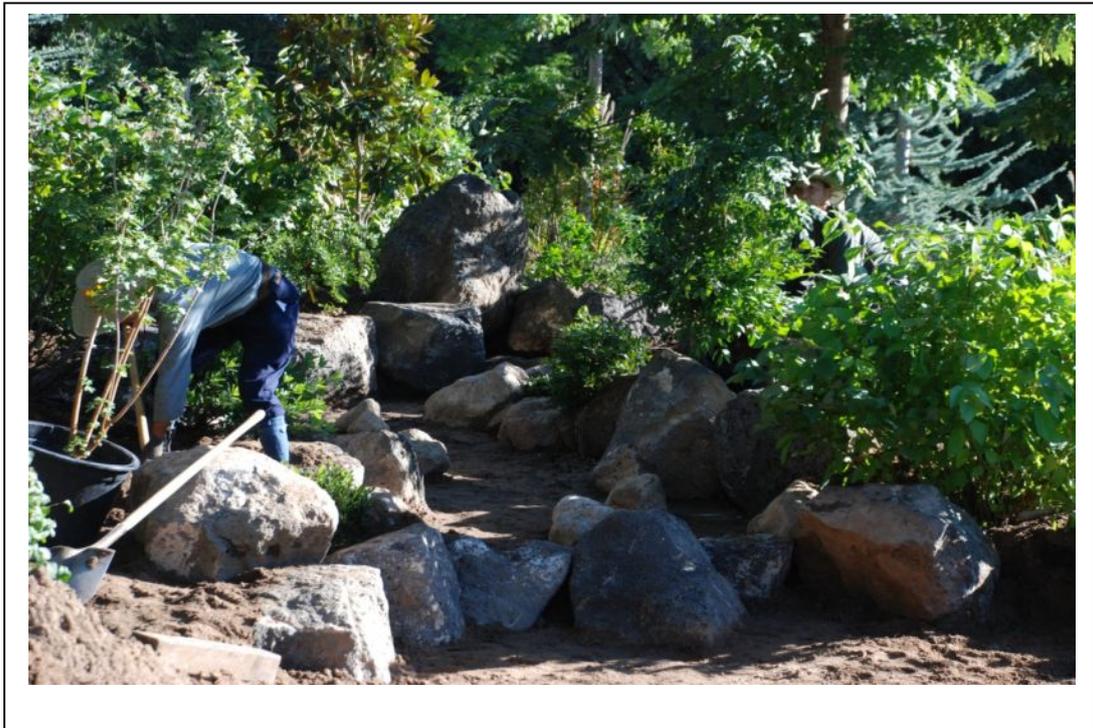
ットを使って石組を開始。
まず滝口、不動石から添え石、護岸石、トヨ石と次々に要所々々に納まっていく。
それを追いかけるように、仮置きしていた植物を植栽していく。
流れの途中外側部分にあるエンジュを堀取りして向きを変える。
2段目の滝石を据えるところに、埋設された既設の散水パイプの本管が出てきたので、トヨ石の位置を調整して据え終えたところで本日の作業は終了した。



説明



説明上下



9月15日（火）

昨日の続きで流れ護岸の石組みから始めた。

施工面積が当初の計画より広くなったため、景石も大量に必要となった。点在する石集めも大変になり、園内未開発の場所の庭石はほとんどなくなってしまった。

流れも下流部の施工になってきたので、小ぶりの石を要所に据え、あとは乱杭・小ぶりの石で土留め護岸とした。

流れの途中に礼拝石を据え、そこから庭園の入口に向かうように飛石を据えた。その途中に踏み分け石から蹲踞へ向かう飛石を据えた。

蹲踞の水利用は循環ポンプを使用した循環のため、一度、役石すべてを外して、防水シートを敷いた後、改めて組み直した。蹲踞の海の中に、ポンプピット用の穴を少し深めに掘った。

昨日同様、植栽も並行して行った。

延べ段の段取りをして本日の作業を終了した。



説明



説明上下



9月16日（水）

延べ段の出だしと庭園をつなぐ飛び石は、大振りの石を使い、延べ段の中に短冊石（正方形に近い）を4石散らした。一度、下地コンクリートを打って、そこに日本でいうアンバー・スカーラ風の薄めの石を張った。

四つ目垣は、一度、日本風の間取りにして柱を立てたが、使用する中国産サラシ竹の長さが決まっていたためにロスを少なくする必要があり、また、つなぎの部分の美観のために、間取りを変更して柱の立て直しをした。もう一ヶ所四つ目垣を作ることとなり、その段取りを行った。

ボランティア2人は、初日に抜いた地被（アジュガ）を我々の指示でまた植え込んでもらった。

一方、蹲踞は役石など防水シートの上に置いただけなのでモルタルで固定した。また、この防水シートは紫外線に弱いとのことで、シート上に直接モルタルの上塗りをした。

護岸をつなぐ乱杭を立てた。乱杭が足りなかったが、作業員に丸太を切って焼く仕事を頼むとほぼ1日かかるので、小ぶりの石を組み合わせ併用して護岸修景を終えた。

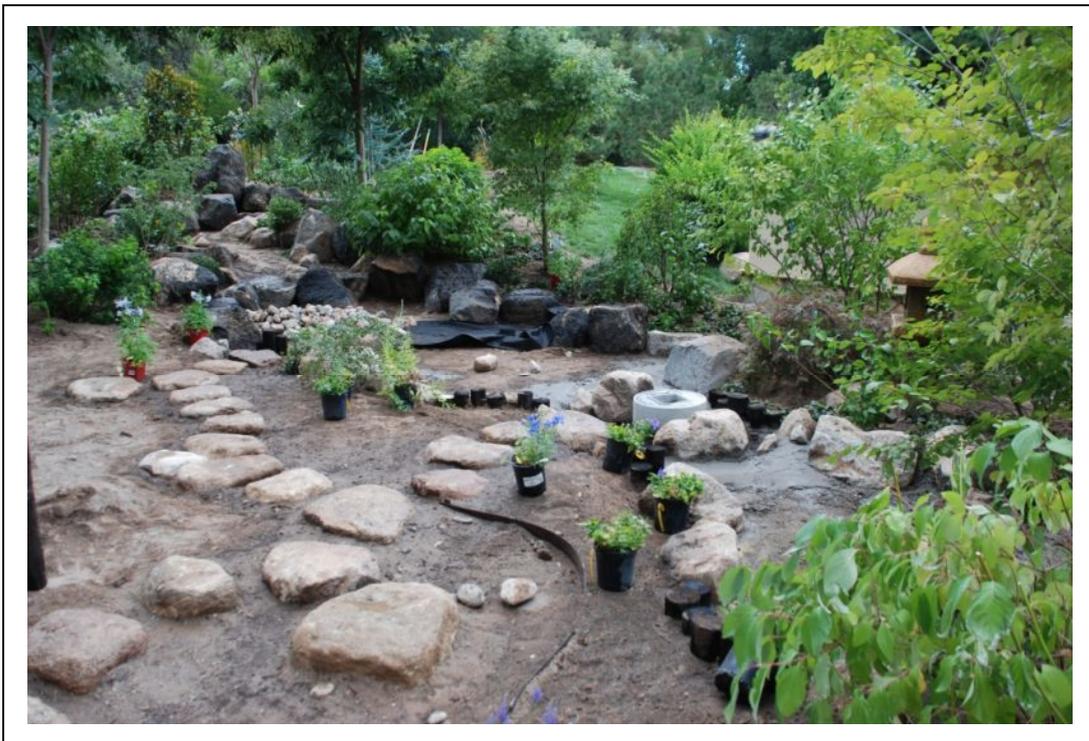
枯れ流れ部分に防草シートを敷き、小石、砂利を敷く。上流の滝口付近はこぶし大の石を、下流は親指大の砂利を敷き、中州部分には那智黒に似た砂利石を敷いた。延べ段の目地は見学者の歩行の安全のために深さを取らず張り石と同面とした。植物を植え、草花を所定の植え込み場所に配置したところで本日の作業は終了した。



説明



説明上下



9月17日（木）

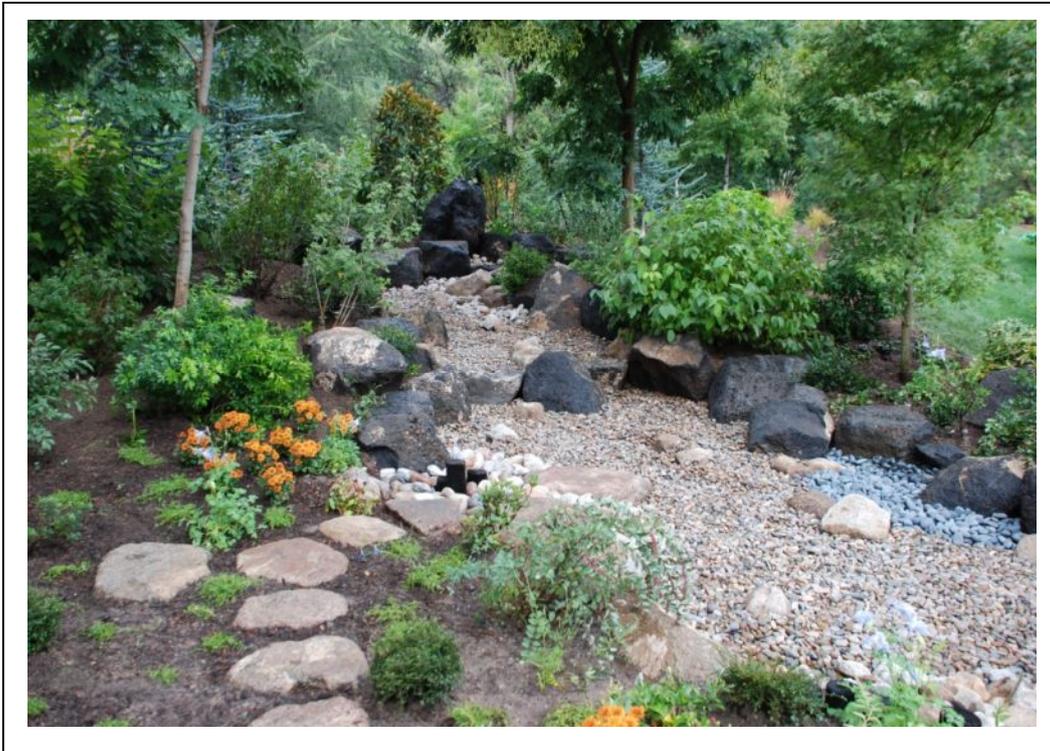
朝からあいにくの雨。時折強く降る。当地では6週間ぶりの本格的な雨だそうだ。雨合羽持参とあったが、ウインドブレーカーなどでは対応できず、全員びしょり。こちらの作業人が使う重い黄色いワンピースの雨合羽を借りて作業を続行。四つ目垣の続きと草花・地被の植え込み。終わったところからトップソイル（パーク）を撒いて仕上げていく。

算を作り、循環ポンプを設置した。

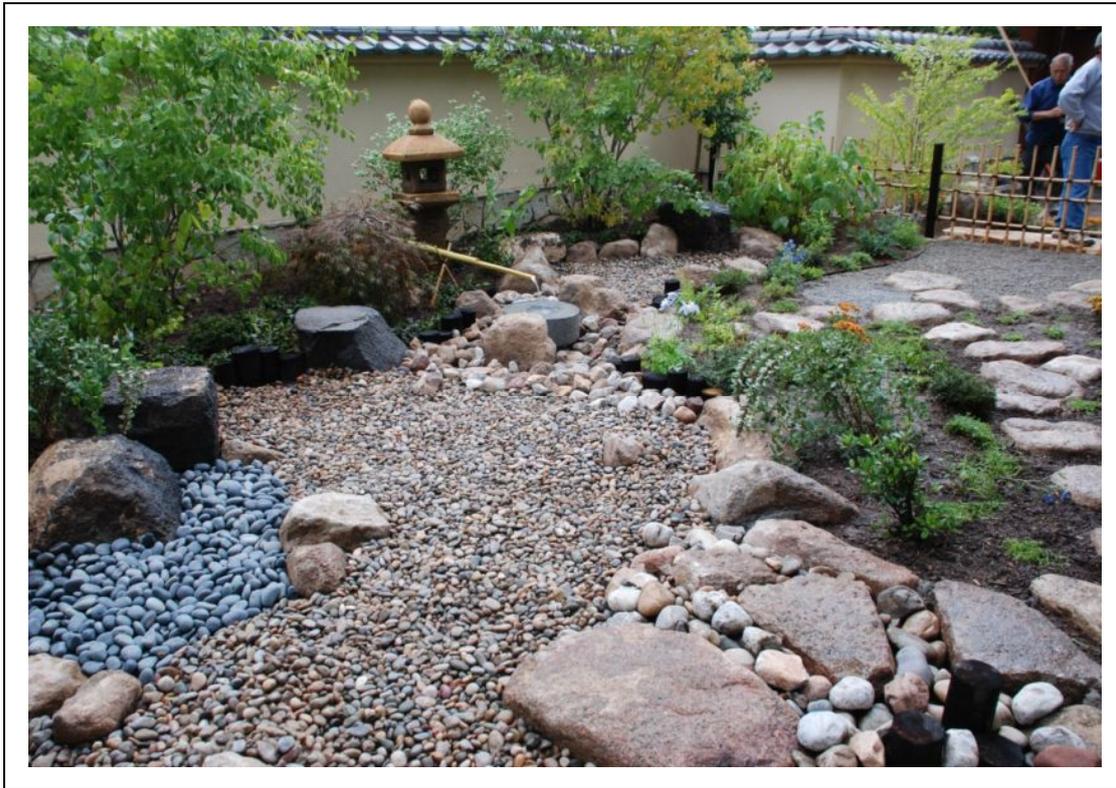
垣根の外側に庭園の観賞台となる大きめの長方形の平石を据える。そのそばにカツラを植え、メモリープレート（後日作ってくれるそうだ）用の景石を据えた。

今日でほとんどの作業は終了した。

雨は午後には上がった。



説明



説明

9月18日（金）

この日はお約束の半纏姿。

1：30pmからのセレモニーの準備を
スプリンクラーの配管ミスで流れに
流れ防止を行う。

何と読みま
すか？

蹲踞ピットの水を取り換え、杓と杓架を置いて蹲踞が完成。

セレモニー前に市の保存用の庭園の説明ビデオの撮影。日本語で星野氏、英語で田中氏が行う。

1：40pm 市長が参加してセレモニーの開始。100名ほどの選ばれた市民が参加。小形会の説明のあと、我々作庭参加者5人の紹介に続き、市長より記念品（銀製ボウル・帽子・市のバッジ）を頂き、記念撮影。

飲み物、食べ物を頂きながら参加者より讃辞を頂く。2時間ほどでセレモニー終了。場所を変え、作庭の仕事を手伝った人たち及び植物園内の従業員の方々による質疑応答を30分ほど行う。みな熱心であった。ボランティアのおばちゃんは特に熱心で、庭の見方・管理方法などを質問してきた。理由は翌日分かった。翌日の一般公開の時におばちゃんの胸にはしっかり“Ask me”のワッペンが貼ってあったのだ。

文責：永井良



説明上下



概要

<p>施工場所： ニューメキシコ州、アルバカーキ市 USA バイオロジカルパーク植物園内</p> <p>期間： 2009年9月12日～19日</p> <p>参加者： 星野 司郎 Shiro Hoshino 小銭 万作 Mansaku Kozeni 永井 良 Ryo Nagai 舘 国雄 Kunio Tachi 井出 浩 Hiroshi Ide 田中 徹 Toru Tanaka</p>

スケジュール：

9月12日(土)	アルバカーキ到着後、歓迎会	アルバカーキ(泊)
13日(日)	午前中、現場材料等チェック、午後は自由	//
14日(月)	地割、石組等、作業開始	//
15日(火)	作業	//
16日(水)	//	//
17日(木)	//	//
18日(金)	午前中作業、3時よりセレモニー	//
19日(土)	午前9時フェスティバル開始、午後サンタフェへ	サンタフェ(泊)
20日(日)	サンタフェ観光、夜アルバカーキへ戻る	アルバカーキ(泊)
21日(月)	アルバカーキ発ポートランドへ	ポートランド(泊)
22日(火)	ポートランド市内観光	//
23日(水)	ポートランド発、成田へ	

編集後記

小形会の海外プロジェクトとしては今回が3回目ということになる。

第1回は、師匠・小形の作品である在米日本大使館内、一白亭茶庭再生のボランティア支援。第2回は、カルフォルニア州サラトガ市の歴史ある庭園、箱根庭園の技術支援プロジェクト。

今回のプロジェクトは、現在建設中の日本庭園内に新たに約100㎡の場所を設け、オリジナルな庭園を造るというものであった。

庭園デザインは小形会会員の応募という形をとり、秋元、星野、永井各氏からデザインの提案をいただいた。田中が現場条件に合わせて3氏のそれぞれ3つのコンセプトを1つにまとめたが、実際には短い作業日程が作業内容を決め、それがデザインの決定要因となったというのが本当のところである。

さて、デザインは左手奥より枯滝石を組み、不動石より始まる枯れ流れは左右に振られながら続き、小滝からやがて池泉となる。景色の良い所に流れと蹲を設け、その途中に礼拝石を置くことで滝石組み、流れをより近く見せることが出来、それらを飛び石でつなぎ、庭園入り口の延べ段から蹲ともリンクさせた。

また、四つ目垣を結界として庭園部分を2分して、流れや滝部分と主園路部分に分けた。詳しくはレポートや写真で確認していただきたい。

追記

小形会に対してアルバカーキ市長を初め、バイオパークの総長、植物園園長ほか沢山の市民より感謝とお褒めの言葉を頂いたことを特に記したい。

田中 徹